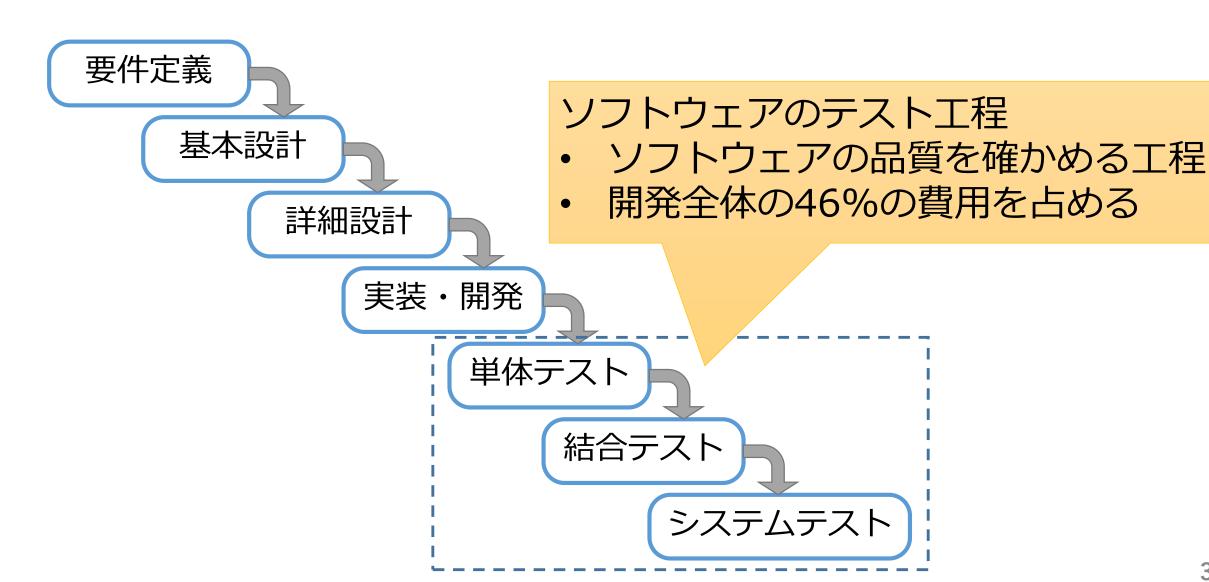
# テストコード自動推薦 ツールに対する評価実験

NAIST SDLab 倉地亮介

#### 本日の実験手順

- 1.ソフトウェアテストの説明 (5分)
- 2. テストコードの作成手順 (5分)
- 3. 事前練習 (10分)
- 4. 実践練習 (10分)
- 5.評価実験 (最大60分)
- 6.アンケート調査 (10分)

#### ソフトウェアテストとは?



#### テストコードとは?

- 作成したプログラムを実行して、結果を確認すること
  - ▶ 単体テストでは、テスト対象を呼び出すテストコードを 書いて実行

```
class Calculator{
  int multiply(int x,int y)
  {
    return x * y;
  }
}

@Test
void test(){
  Calculator calc = new Calculator();
  int result = calc.multiply(10,20);
  assertEquals(200,result);
}
```

テスト対象コード

テストコード

#### 単体テストの作成手順

1. テスト項目(何を調べるか)を決める



- 2. テストコードを作成
- 3. テスト実施 (テストコード実行と結果の確認)

# テストコードの書き方

テストコードの記述と実行

#### テストケースクラスの例

```
public class CalculatorTest { // クラスCalculatorに対するテスト
 // テストメソッド。何をテストして、何を期待するのかを理解できる名前をつける
                  // テストメソッドを表すアノテーション
   @Test
   public void testMultiply01() throws Exception {
      Calculator calc = new Calculator(); // テスト対象の準備
      int expected = 200; // 期待する戻り値
      int actual = calc.multiply(10, 20); // テスト対象実行
      assertEquals(expected, actual); // 実行結果の検証
   @Test
   public void testMultiply02() throws Exception {
      // 以降、テスト項目毎にテストメソッドを作成
```

#### テストケースクラスの書き方

● 1テスト項目を1つのメソッドとして記述

```
テスト対象メソッドを呼び出す
↓
出力が期待通りかどうか調べる
```

期待する結果かどうか調べるためのメソッド群 (assertXX)が用意されている

```
@Test // @Testはテストメソッドを表すアノテーション
public void testMultiply@1() throws Exception {
   int actual = new Calculator().multiply(10, 20);
   assertEquals(200, actual);
}
```

#### 主なアサーションメソッド

メソッド名	説明						
assertTrue(boolean)	引数がtrueかどうか検証する						
assertFalse(boolean)	引数がfalseかどうか検証する	本実験で主に用いる					
assertEquals(expected, actual)	2つの引数が同値であるかどうか検証する						
assertSame(Object1, Object2)	2つの引数が同じオブジェクトカ	どうか検証する					
assertNotSame(Object1, Object2)	2つの引数が異なるオブジェクトかどうか検証する						
assertNull(Object)	引数がnullかどうか検証する						
assertNotNull(Object)	引数がnullでないかどうか検証	する					
fail()	テストを強制的に失敗させる						

# テストカバレッジ

カバレッジの種類

# カバレッジ = テストの網羅率

- プログラム全体の内、テスト中に実行された行 の割合
- 「テスト中に一度も実行されない行がある」
  - > その部分の品質は保証できない
  - ▶ (できる限り) カバレッジを100%に近づけるべき

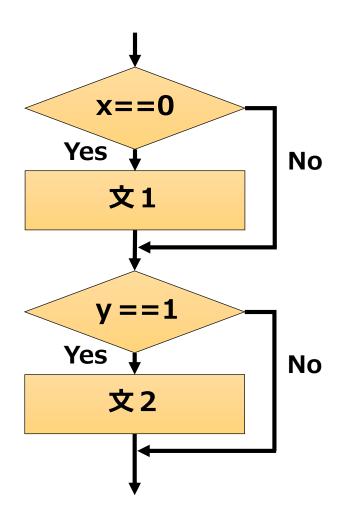
# カバレッジの種類

#### ● 命令網羅 CO

- > 全ての命令を最低一回実行
- フローチャートの全節点を通過
   ✓ (x=0, y=1)を入力

#### ● 分岐網羅 C1

- ➤ 全ての条件分岐について、then、else いずれも最低一回以上実行



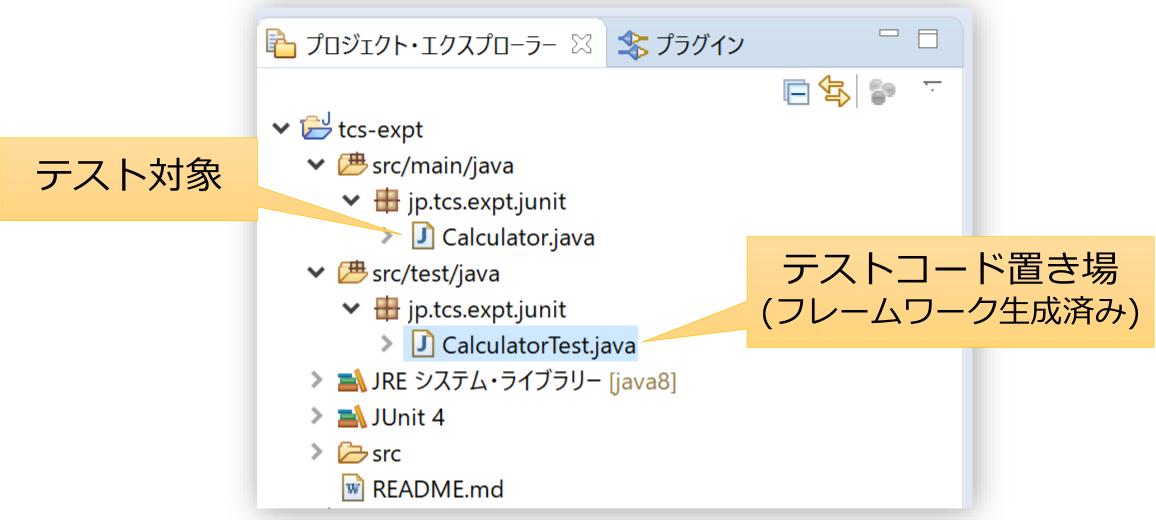
# 練習問題

テストコードの記述と実行

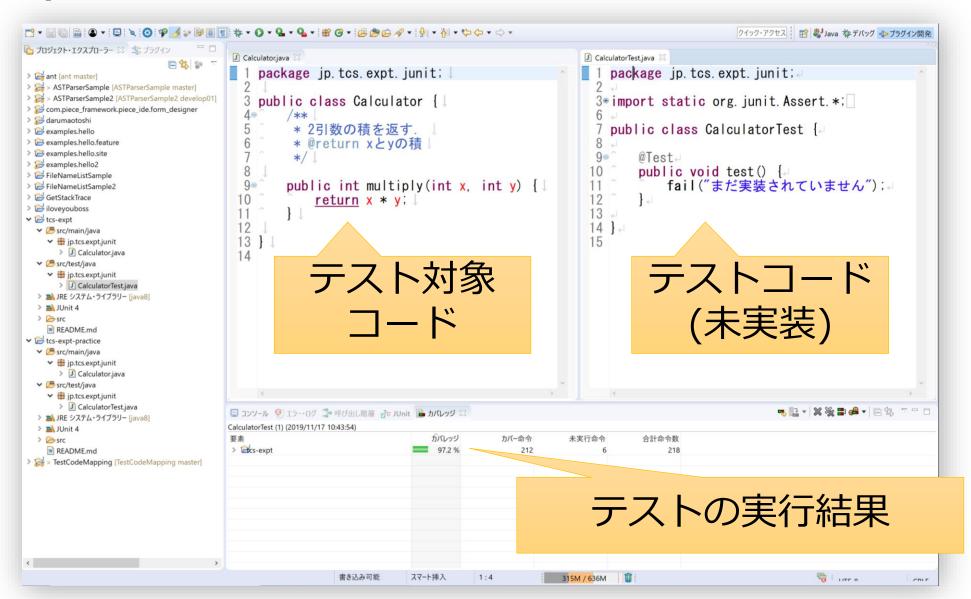
## 事前練習 (10分)

- 簡単なテストケースを作成
  - 開発環境: Eclipse oxygen
  - テスティングフレームワーク: JUnit4
  - テスト対象コード: Calculator.java
    - ➤ テスト対象コードはフォルダ src/main/java の下にある
    - ➤ テストコードはフォルダ src/test/java の下にある

#### 練習プロジェクトの確認



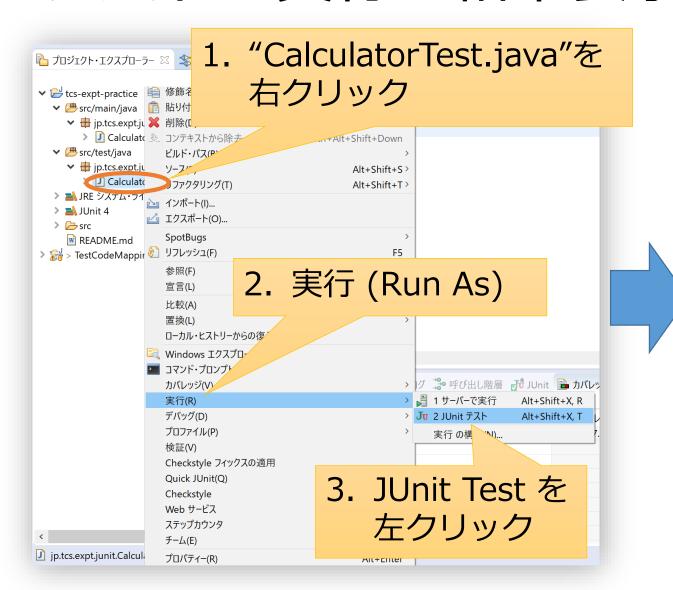
## Eclipseの見方

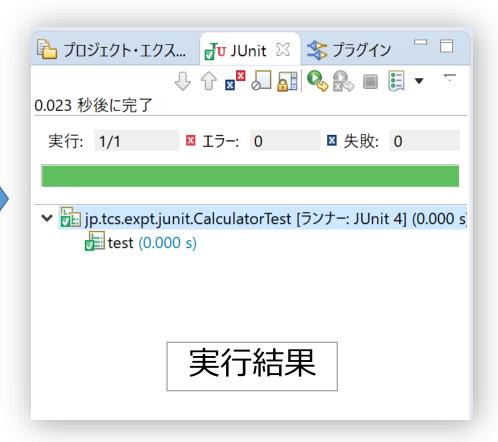


#### テストコードの記述

```
public class CalculatorTest {
  @Test
  public void test() {
     Calculator calc = new Calculator(); // テスト対象の準備
     int result1 = calc.multiply(10, 20);
     int result2 = calc.multiply(20, 30);
     assertEquals(200, result1);
     assertEquals(600, result2);
```

#### テストの実行・結果表示





# 実践練習 (10分間)

- フォルダ **src/main/java** の下ある "CalcMax.java" に対する テストコードを作成してください
- "CalcMax.java"の仕様
  - 3つの引数(int 型) a, b, c を入力としての最大値を返す
  - テストコードの練習のため、少し分かりにくいコードにしてある

#### ロポイント

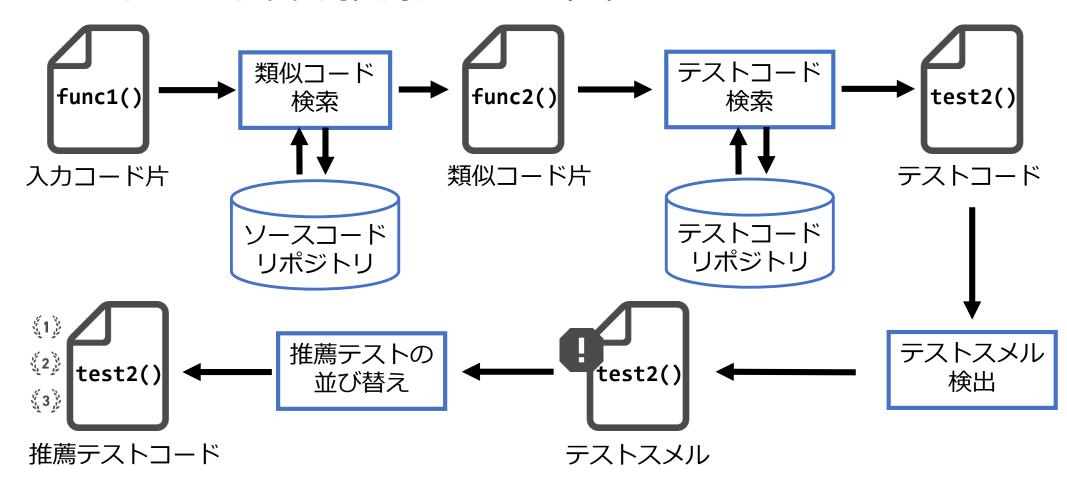
- ✓ 他の人から見ても読みやすいテストコードを書く
- ✓ 漏れのない必要十分なテストの量がどれだけか考える

## テストコード自動推薦ツール

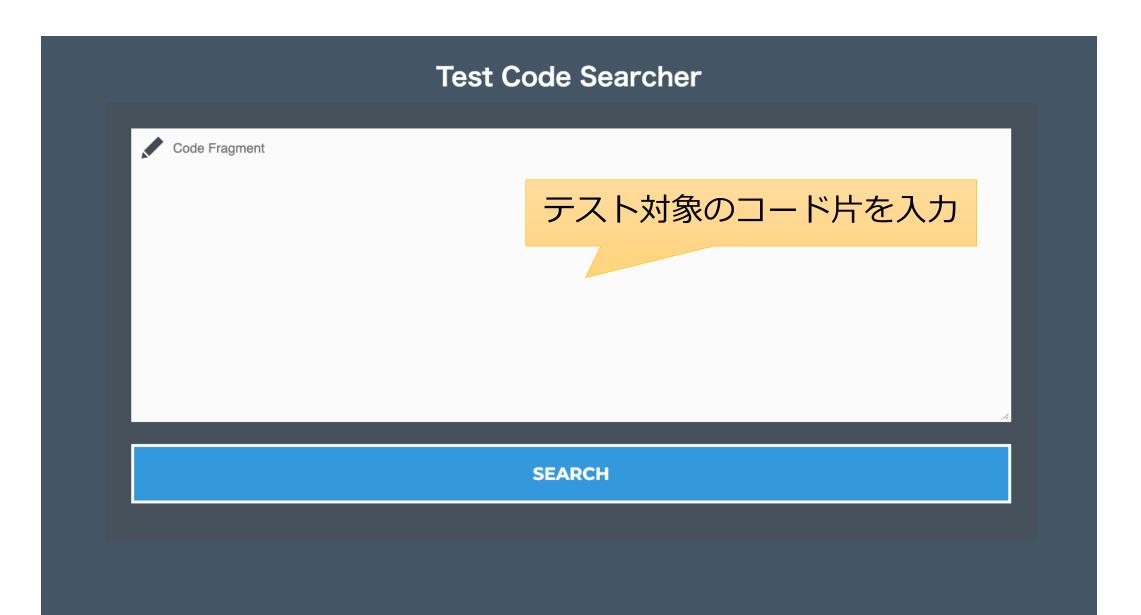
ツールの概要・使い方

#### テストコード推薦ツール

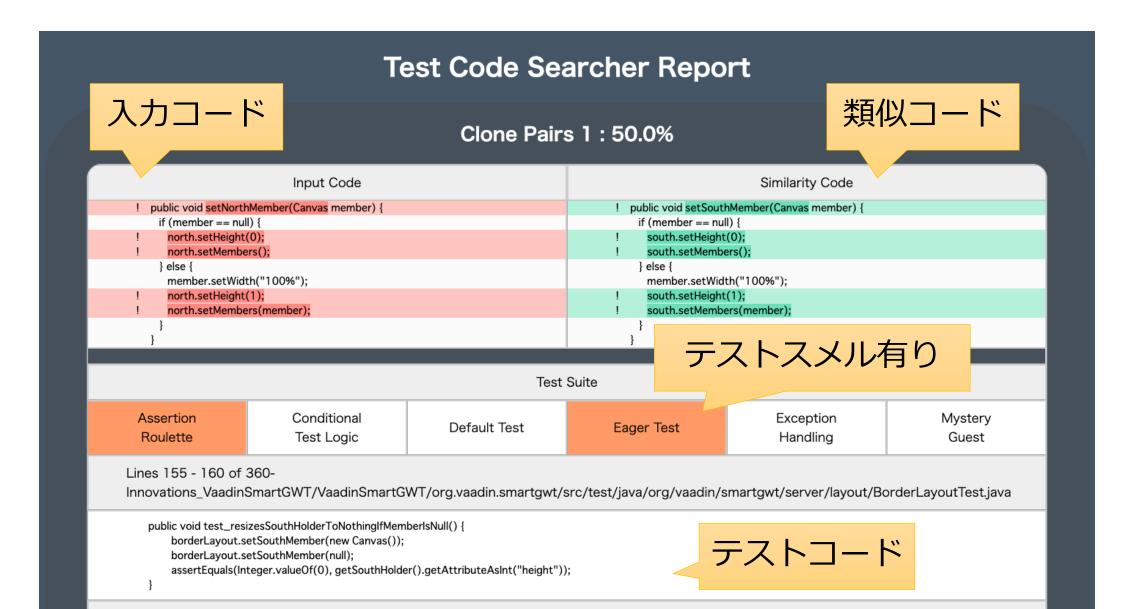
● テストコード自動推薦ツールの仕組み



#### テストコード推薦ツールの使い方1



#### テストコード推薦ツールの使い方2



# 評価実験

#### 評価実験の概要

- 1人で3つのコード片に対してテストコードを書いてもらいます
  - 1回目は、何も使わずテストコードを書く(20分)
  - 2回目は、テスト推薦ツールを使って書く(20分)
  - 3回目は、何も使わないまたはツールを利用して書く(20分)
    - ※ 1回目に推薦ツールを使う場合もある
  - ■アンケート回答
- 調査すること
  - ▶ 自身で納得するまでのテストコード作成時間(最大20分)
  - ▶ テストコードの品質(テストスメルの有無)

## 実験問題の割り当て

実験者	A A さん		B B さん		Cさん		Dさん		上 Eさん		<b>P</b> さん		<b>G</b> さん		上 Hさん	
	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール	問題	ツール
1回目	問題1		問題1	0	問題2		問題2	0	問題3		問題3	0	問題1	0	問題1	
2回目	問題2	0	問題3		問題1	0	問題3		問題1	0	問題2		問題2		問題3	0
3回	問題3		問題2	0	問題3		問題1	0	問題2		問題1	0	問題3	0	問題2	

# 事前資料のご確認 ありがとうございました